

医学研究センター

研究主任部門

依田 哲也
(部門長)

1. 構成員

部門長 依田 哲也 (YODA Tetsuya) : 埼玉医科大学歯科口腔外科：教授：任期：H28年4月1日～
副部門長 岡崎 康司 (OKAZAKI Yasushi) : ゲノム医学研究センター長：教授：任期：H28年4月1日～
田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部：教授：任期：H28年4月1日～
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki) : 保健医療学部医学生体工学科：教授：任期：H28年4月1日～
海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部：准教授：任期：H28年4月1日～
部門員 町田 早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター：助教：任期なし

2. 目的

本部門は研究活動にとって有意義な情報を研究主任を通して基本学科の研究員の隅々まで伝達できるよう、体制整備を行う。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向け情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め支援活動を行う。本年は学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

1) 第13回学内グラント受賞者成果発表会

日時：平成28年7月22日(金曜日)17:00～19:40

場所：毛呂山キャンパス本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3(テレビシステム中継)

日高キャンパス・管理棟3階大会議室(テレビシステム中継)

演題・発表者：(敬称略)

(1) 野村 務 (医学部, 総合医療センター耳鼻咽喉科)

「3次元気流解析による頭頸部手術の術後嚥下構音機能予測」

(2) 金子 優子 (保健医療学部, 看護学科)

「網膜ドーパミン作動性アマクリン細胞の自発的活動に関わるイオンチャネルの解明」

(3) 奥田 晶彦 (ゲノム医学研究センター)

「c-Mycによるアポトーシス誘導とそれに対する抑制因子としてのNanogの役割」

(4) 長谷部 孝裕 (医学部, 国際医療センター・病理診断科)

「癌間質・脈管内組織の生物学的特性に基づく癌悪性度評価」

(5) 佐藤 浩二郎 (医学部, 大学病院 リウマチ膠原病科)

「ゲノム編集法を利用した破骨細胞分化におけるNfatc1アイソフォームの機能解析」

総合司会：ゲノム医学研究センター 岡崎康司

座長：総合医療センター 田丸淳一, 保健医療学部 下岡聡行, ゲノム医学研究センター 岡崎康司, 国際医療センター 海老原康博 大学病院 佐藤毅

開会の辞：別所正美学長 閉会の辞：松下 祥 医学研究センター長

総参加数：合計64名(内大学院生27名)

毛呂山キャンパス 40名 (内大学院生 8名)

日高キャンパス 14名 (内大学院生 11名)

川越キャンパス 10名 (内大学院生 8名)

2) 第14回学内グラント受賞者成果発表会

日時：平成29年2月24日(金曜日) 17:00～19:40

場所：毛呂山キャンパス・本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3(テレビシステム中継)

日高キャンパス・管理棟3階大会議室(テレビシステム中継)

演題・発表者：(敬称略)

(1) 谷川祥陽 (医学部, 総合医療センター小児科)

「フォンタン術後遠隔期症例に対する簡便な在宅和温療法の効果－血行動態と自律神経活動の改善」

(2) 平崎正孝 (医学部, ゲノム医学研究センター)

「Myc-Nanog複合体によるMax欠損ES細胞の多機能性維持とアポトーシス抑制」

(3) 中尾啓子 (医学部, 生理学)

「眼咽頭筋ジストロフィー原因遺伝子PABPN1の持続性発現による疾患モデル作成および機能解析」

(4) 樽本憲人 (医学部, 大学病院感染症科・感染制御科)

「重症感染症における自然免疫リンパ球の解析」

(5) 三島一彦 (医学部, 国際医療センター脳神経外科)

「悪性グリオーマに対する放射線増感による新規治療法の開発」

総合司会：大学病院 依田哲也

座長：総合医療センター 福田祐樹, ゲノム医学研究センター 松本征仁, 黒川理樹, 医学部 川野雅章, 国際医療センター 田中竜平

開会の辞：別所正美学長 閉会の辞：松下祥 医学研究センター長

参加者数：合計76名(大学院生 30名, 学部生 1名)

毛呂山キャンパス 52名(大学院生 13名, 学部生 1名)

日高キャンパス 8名(大学院生 5名)

川越キャンパス 16名(大学院生 12名)

4. ラボノートに関するe-ラーニングの作成

完成品を提出。29年度の倫理教育応用編にラボノートに関するe-ラーニングを使用する方針。